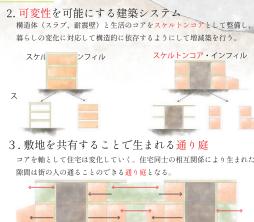
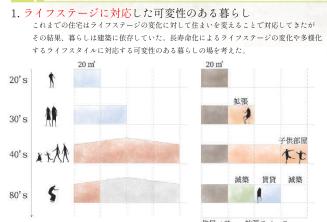


流動する通り庭

令和の時代、技術が急速に進歩し、ライフスタイルは多様化している
しかし、数十年住み続けなければならない分譲戸建て住宅はライフスタイルの変化に対応しきれない。
賃貸アパートを転々とする暮らしでは、故郷のような居心地の良さは醸成されない。
多様化する暮らしのあり方に対応する、土地に根を下ろした暮らしの場を提案する。
住宅の可変性をフレームの中に閉じ込めるのではなく、外側に展開するように配置する。
住戸の拡大縮小により生まれた場合は、時にはひらけた庭のようになり、時には活動が溢れる路地のようになる。
流動する通り庭は、住人同士の関係性を育むコミュニティコアとなる。



1 PROPOSAL - コミュニティコア



2. 可変性を可能にする建築システム。
構造体（スラブ、耐震壁）と生活のコアを「スケルトンコア」として整備し、暮らしの変化に対応して構造的に保存するようにして増減築を行う。

スラブ
スケルトンコア・インフィル

3. 敷地を共有することで生まれる通り庭
コアを軸として住宅は変化していく。住戸同士の相互関係により生まれた開口部は他の人の通ることができる通り庭となる。

2 DIAGRAM - 大きな中庭と小さな"カドニワ"



鉄塔のある中庭を囲うようにしてスラブ
とコアを配置する

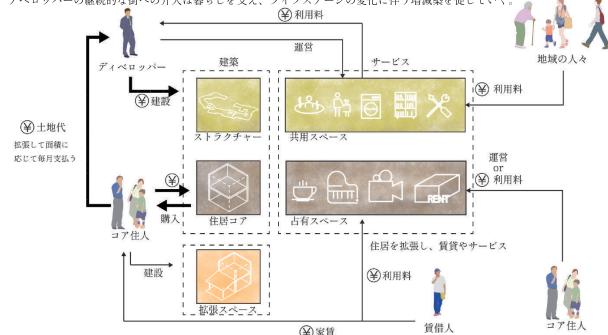
街と繋がる5つの角の"カドニワ"
緩急を与えたコアに合わせて耐力壁を配置する

スラブを運行させていくことで暮らしに
寄り添う小さな庭を作る

3 SYSTEM - 変化を促す有機的な仕組み

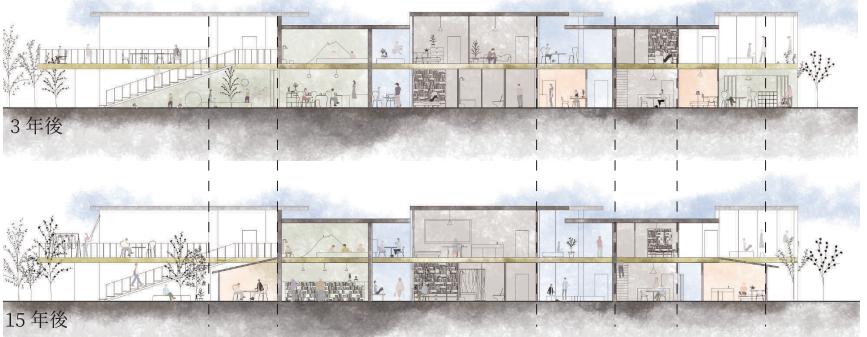
住宅を完成された商品として提供するのではなく、ストラクチャーやサービスを継続的に管理・運営していく。
長期的に街と関わり続けることは、初期投資を回収したものの収益にも繋がる。

デベロッパーの継続的な街への介入は暮らしを支え、ライフステージの変化に伴う増減築を促していく。



4 SECTION S=1/200 - 移り変わる建築と暮らし

子どもは成長し、家を離れ部屋は小さくなる。拡張した通り庭では街の人との交流が生まれる。一人暮らしの老人は、部屋を貸すことで暮らしの手助けを得る。暮らしは交わり繋がっていく。この街にはそんな暮らしが生まれていく。



5 PLAN S=1/400



街の人々の生活が現れる風景